

學生CRED

活動記錄

学生 CRED 新メンバー大募集中！！！！

学生 CRED とは、『東京家政大学を、私たちの学生生活をよりよくすること』を目標として活動している、サークルとは異なる学生有志団体です。

これまでに、「学生と教職員の交流会」や「新入生ウェルカムパーティー」、
「学生に対するアンケート」、「狭山キャンパス交流会」などを、学修・教育開発センターの教職員の方々や参加学生の方々の協力の下、開催してきました。

これらの企画は、「こういったイベントがあると嬉しい」、「学生同士でもっと交流する機会をもちたい」といった、学生目線の思いから生まれたものです。

今後も様々なイベントを企画していきたいと考えています。そこで、学生 CRED では、一緒に活動していくメンバーを募集しています！！学科・学年の垣根を越えて協力し合い、家政大での学生生活をより良いものになりたいと考えている方、ぜひお待ちしております！！！！

【現在のメンバー】

4年・・・3名　3年・・・7名　2年・・・1名　・1年・・・1名

様々な学科のメンバーと日々楽しく活動しています♪

<興味がある方はぜひお気軽にご連絡ください！！>

学生 CRED 公式 Twitter⇒@cred_student
学生 CRED メールアドレス⇒cred-student@tokyo-kasei.ac.jp

皆様からのご連絡、お待ちしております！！

次のページからは、これまでの活動の記録を新→古の順番に並べました！ぜひご確認ください。

新入生ウェルカムオンライン会 in板橋キャンパス

PROGRAM	4/15 THU	15:50	・児童学科(児童学専攻/育児支援専攻) ・栄養学科(栄養学専攻/管理栄養士専攻) ・児童教育学科 ・環境教育学科 ・服飾美術学科
		17:00	・造形表現学科 ・英語コミュニケーション学科 ・心理カウンセリング学科 ・教育福祉学科 ・保育科(短期大学部) ・栄養科(短期大学部)
	4/16 FRI	15:50	・栄養学科(栄養学専攻/管理栄養士専攻)

2021 春

新入生ウェルカムパーティー

Akiko Shiba



柴 亜紀子
人文学部 教育福祉学科3年

DATA

2021年4月15日(木) 15:50~18:00 / 4月16日(金) 15:50~16:50
学生270名(上級生35名 新入生235名)、教員2名、職員3名



学生CREDでは、毎年4月に“新入生と上級生が交流するイベント”である新入生ウェルカムパーティーを開催してきました。

しかし、昨年は感染症拡大防止の観点から新入生ウェルカムパーティーを開催することが出来ませんでした。昨年も長い時間をかけて準備していたため、中止になってしまったことはとても悔しかったです。

そして、今年こそは新入生と上級生の交流の場を設けたいという思いから、今年の新入生ウェルカムパーティーはGoogleMeetを使用したオンラインでの開催を目指し、企画を始めました。また、オンラインでの開催にあたって、「新入生ウェルカムパーティー」という名称から「新入生ウェルカムオンライン会」という名称に変更しました。

本イベントは、12月頃から準備を始めました。そして、新入生が履修登録についての相談も出来るように履修登録前の日程でのイベント開催を目指しました。学生

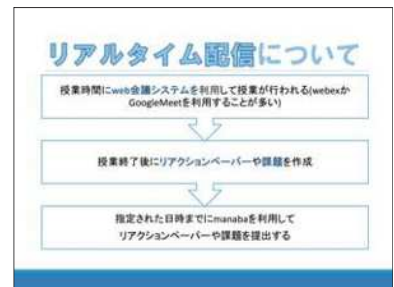
CRED史上初めてのオンラインでのイベント開催ということもあり、戸惑う場面も多くありましたが、学生CREDメンバーで協力し合いながら準備を進めました。GoogleMeet的使用方法について参加者全員が理解出来るようにマニュアルを作成して、GoogleMeetの練習日を設けるなどオンライン開催だからこそ必要な準備も多くありました。

当日は、学科ごとにミーティングを設定して、学科ごとに分かれてイベントを開催しました。イベントの前半では、有志の学生CREDとは別に募集した上級生スタッフに事前に用意して頂いた資料を用いて、「1年次の履修や私生活について」「新入生へのアドバイス」「オンライン授業を受講する上でのポイント」などについて新入生に発表してもらいました。全ての上級生スタッフが非常に丁寧に資料の作成、学校生活についての説明をしてくれました。そして、イベントの後半では少人数のミーティングを設定して、新入生の質問に上級生が答えていくという時間にしました。後半の時間では、どの学科も活発な話し合いをすることが出来ました。

会の参加者に回答して頂いたアンケートでは、「先輩と話せる機会があり、良かった。」「参加することで他の新入生の状況も分かって良かった。」という声を頂くことが出来て、とても嬉しく思っています。

新入生ウェルカムオンライン会は、多く

の方々の協力があり、開催することが出来ました。ご協力頂いた有志の上級生スタッフの方々、参加して頂いた新入生の方々、CRED教職員の皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



PROGRAM

2/10
MON

10:30 開会のあいさつ
10:35 一日の流れ説明
自己紹介
キャンパスツアーの説明
10:50 謎解きキャンパスツアー
休憩

11:30 モリリンの一日ゲーム
11:50 ディスカッション
学生同士で話し合い
発表
13:00 食事会
13:40 閉会のあいさつ



第1回

板橋キャンパス×狭山キャンパス
キャンパス交流会

DATA

2020年2月10日(月) 10:00~14:00
学生19名Rio
Suzuki

鈴木 梨央

家政学部 環境教育学科2年

2月10日(月)、東京家政大学狭山キャンパスにて「第1回狭山×板橋キャンパス交流会」が開催されました。この交流会は同じ大学であるにも関わらず、互いについてほとんど知らない状態だった東京家政大学の2つのキャンパスの学生同士が交流し、学生生活をより楽しくするために企画されました。また、これまで学生CREDで企画してきたイベントの経験を活かして、今度は板橋キャンパスを出て開催してみようという新たな試みでもありました。これを実現させるまでにはいくつか苦労したことがありました。

1つ目に、交流会でどんなことをすればこの企画の目的を果たし、参加者の方に楽しんでもらえるかを考えることです。これは学生スタッフが意見を出し合いながら、

何度も構想を練りました。狭山キャンパスに初めて来る参加者に狭山キャンパスのことを知ってもらうためには、まずは校内を回るツアーが良いと考え、各地点に家政大にまつわるクイズを設置した「謎解きキャンパスツアー」を取り入れました。ディスカッションでは大学をより良くするという大きなテーマを話し合いやすくするために、家政大に作りたい建物を自由に考えて各班にイラストを描いてもらいました。キャンパスツアーやゲームを通して話しやすくなった空気の中、クイズで得た知識も活かして活発に意見が出ていたのが印象的でした。

2つ目は学生CREDスタッフ間での連絡の取り合いです。今回の企画では狭山キャンパスの学生有志にも協力していただ



きました。準備では何が必要か逆算して考え、それに優先順位をつけて役割を分担していきました。また、当日まで会場である狭山キャンパスにはなかなか行ける時間がないため、借りるものや配置など詳細まで把握して決めておくことが必要でした。学生CREDのメンバーは忙しい中でも時間を見つけて自分の役割をこなし、良いアイデアを持ってきてくれるので私も頑張ろう!という気持ちになりました。

無事に本番を終えたときは大きな達成感を感じ、時間をかけてみんなで準備してきた良かったと心から嬉しく感じました。

今回の交流会では多くの方が学生の発案に賛同し、準備に協力してくださったおかげで前例のないキャンパス間の交流会の実現に漕ぎ着けることが出来ました。本当にありがとうございました。

学生CREDではこれからも多くの人に参加したいと思ってもらえるようなイベントを企画し、皆さんの学生生活をより良くするお手伝いが出来たら嬉しいです。





2020 冬

学内学生協働ボランティア団体 合同活動報告会に参加して

DATA 2020年2月25日(火) 11:00～12:00
学生CRED5名



Suzune
Sato

佐藤 涼音
人文学部 教育福祉学科2年



この活動報告会で、私たち学生CREDは「学内一斉アンケート」「狭山&板橋キャンパス交流会」「今後行うイベント」の3つについての発表を行いました。

発表は、学生CREDのメンバー3人で模造紙を使用したポスターセッションという形で行いました。

どのイベントや企画も、なぜ行ったかという目的を明確にしてそれぞれ発表しました。学内一斉アンケートの目的は、学生生活を向上させるためです。授業アンケートはありますが、学生目線のアンケートがなく、まずは学生の意見を知りたいと思ったことがきっかけです。このアンケートは実施して終わりではなく、集計や分析を行

い、その結果を公表するなど、引き続き学生生活の向上に向けた活動を行っています。狭山&板橋キャンパス交流会の目的は、同じ大学であるのにも関わらず、一度も交流しないで卒業するのが惜しいためです。各イベントの目的だけではなく、実施したことでのどのような成果が得られたのか、反省点や課題などについても発表しました。学内一斉アンケートと狭山&板橋キャンパス交流会はどちらも初めての試みだったので、今回感じた反省点や課題を次回に活かしていきたいと改めて思いました。

私自身、人前で発表することはあまり得意でないため最初は不安と緊張がありましたが、参加者の方々が温かい視線で見守って下さったので、安心して発表することができました。

また、この活動報告会は私たち学生CREDの他に「図書館Library Mates」「狭山Book Friends」の方々が参加されたため、他団体の活動も知ることができまし

た。質疑応答の時間では学生や職員の方々が積極的に質問をしていたのが印象的でした。質問をすることで、その団体の活動や工夫した点、苦労した点などを深く理解することができたと思います。お互いの素晴らしいと思ったアイデアは自分たちの活動に取り入れて、さらに良いイベントや企画をつくっていききたいと思います。

活動報告会の後は、参加した方々とさらに楽しく意見交換をしました。発表では伝えきれなかったことや詳しい資料などを見ながら、大変だった点やこれから挑戦したいことなどについて話をしました。その話の中で、今回参加した3団体と一緒に何かできることもあるのではないかと話も出たので、今後実現できたらと思っています。

今回の活動報告会を通して新たな発見がたくさんあり、とても有意義な時間を過ごすことができました。今後もこのような機会があったら参加して、多くの方々に私たちの活動を知っていただきたいです。

PROGRAM

8/27
TUE

- 12:00 受付開始
- 13:00 オープニング
- 14:40 集合写真
- 15:00 ポスターセッション
- 17:00 移動
- 17:30 情報交換会
- 19:00 終了

PROGRAM

8/28
WED

- 09:00 受付開始
- 10:00 シャベリ場
- 12:00 昼休憩/発表準備
- 13:30 発表
- 14:30 移動
- 15:00 クロージング
- 16:00 解散

2019夏

学生FDサミット in 北翔大学

DATA

2019年8月27日(火) 12:00~19:00、8月28日(水) 9:00~16:00
北翔大学 / 学生5名

Chinatsu
Imada



稲田 千夏

家政学部 栄養学科栄養学専攻1年



“大学生の今でしかできないことをしたい北海道に行ってみよう。”

思い立ったが吉日。大学に入りたてのになにかもが新鮮な私は、せっかくならこの機会にと、参加を申し込みました。

好奇心と興味の勢いで申し込んだものの、ディスカッションに苦手意識があったこともあり、サミットの日が近くなってくるにつれ、しっかりディスカッションできるか、堅苦しいイベントなのか、班の人と全く気が合わなかったらどうしよう、などといった気持ちももちろんありました。

そして迎えた当日。1日目はポスターセッション。ずらりと貼りだされた何枚ものポスター。私たちはポスターの制作はしませんでした。参加した他の大学のそれ

ぞれの独自の取り組みについて知ることができました。

2日目は教職員学生混合のグループに分かれて「大学はつまらない？」といったテーマでディスカッションをしました。全員初対面でしたが、当初の不安が知らぬ間に無くなっていくほど思っていた以上に皆さん社交的で優しく、話し合いは円滑に行え、休み時間には趣味やそれぞれの地元話で盛り上がりました。班員は私と同じ1年生がほとんどでしたが、素晴らしいリーダーシップを発揮していた方、建設的な意見をたくさん出していた方を見ては、自分はまだまだなど何度も思いました。また、効率の良いディスカッション方法や、より見やすい模造紙へのまとめ方、魅力的

なプレゼンテーションの仕方も実際に目で見て学ぶことができました。グループに教職員の方がいらっしゃったことで、また違った方向からの意見を聞くことができましたし、全く違う地域、違う大学から人が集まることで、より様々な視点からのアイデアを聞くことができました。

自分の意見を上手く言葉にできなかったり、話し合いが進むにつれ頭が混乱し、周りについていけなくなったりと前からディスカッションが苦手だった私ですが、このサミットを通してディスカッション=難しい、堅苦しい、苦手といったイメージから、ディスカッション=視野が広がる有意義な場といったプラスな印象に変わりました。まだ得意だとは言えませんが、この数時間で私は確実に成長しました。軽い気持ちで申し込みましたが、過去の自分は大正解でした。普段の大学生活では経験できない大変貴重な時間を過ごすことができ、参加して良かったと思っています。そして、共有して頂いた他校の取り組みや得た情報・資料を今後、自分たちの活動の参考にしたいです。



第6回

学生CRED アンケート企画



Kotomi
Hagino

萩野 珠光
人文学部 心理カウンセリング学科2年

DATA 2019年12月5日(木) 16:00~18:00 /ルーチェ(板橋キャンパス16号館1階)
学生17名、教員15名、職員6名

アンケート企画に携わらせていただきました、心理カウンセリング学科2年の萩野です。

私たち学生CREDは、「家政大を、自分たちの学生生活をよりよくするために」という発足当初の目的のもと、学生CRED史上初の取り組みとしてアンケート企画を実施しました。アンケート実施に至るきっかけとしては、「本学への改善点を発見するためには、まず学生の意見を聞くことが大切だ」と考えたことが始まりでした。

アンケート実施までの経過としては、本年度前期に実施時期や方法、質問の大まかな内容を決定しました。夏頃に質問項目についてメンバーで話し合い、具体的なアンケートの作成を行いました。アンケートの内容は大きくは、「授業に関する質問」と「施設・設備に関する質問」のふたつに分けて構成を練っていきました。質問項目については統計の専門家である学修・教育開

発センターの井上先生に添削をいただきましたが、学生が作成したアンケートということに大きな意味がある、と最大限内容を変えないように配慮していただきました。実際にアンケートを実施したのは11月中旬から下旬にかけての2週間ほどの期間でした。

初の試みということで、アンケート実施までには多くの課題や不安がありました。無事に終了することができ、ほっとしています。

話し合いを重ねる中で質問内容が膨らんでいき、設問数もかなり多くなりましたが、たくさん学生の回答を得ることができました。記述で意見をしっかりと伝えてくれる学生も多く、今までは見えていなかった学生の声をたくさん発見しました。また、今回のアンケートの結果を見て、想像していた以上の家政大生の真面目さ、学びに対する意欲を感じました。

私は今回のアンケート企画を通して、ベースのないものを0から作り上げるこの大変さ、そして、達成したときの感動を味わうことができました。

このような経験ができたのは、たくさんの学生が回答に協力してくれたこと、そして、私たち学生の「やってみよう!」という声にしっかりと耳を傾けて下さる教職員の方が、東京家政大学にいらっしゃったからだと思います。

さて、今回のアンケート企画の目的は、アンケートを行って終わりではありません。私たちはこれからの東京家政大学をより良くするための一歩として、アンケートを実施しました。学生が伝えてくれた意見を無駄にしないように、精一杯報いることができるように、私たち学生CREDは、今後より一層の努力と行動を重ねていきます。



交流会当日プログラム

- 16:00 開会
- 16:05 アイスブレイク
- 16:20 アンケート結果についての報告
- 16:35 学生・教職員で話し合い
- 17:15 班ごとに発表
- 18:00 閉会

学生による学生のためのアンケート実施！

本年度学生CREDの新しい取り組みとして実施された「大学生活に関するアンケート」には、大学生活をより良くしたいと願う学生の思いが込められていました。従来、与えられるだけであった大学内での生活環境に対して学生から声を挙げていくということは、東京家政大学の建学の精神「自主自律」に根付いたものであったのではないのでしょうか。

今回の「大学生活に関するアンケート」は東京家政大学の家政学部・人文学部生を対象にしたもので、回答人数は1298人となっています。

質問内容は主に「授業に関するもの」と「大学の施設設備に関するもの」の2種類から構成されています。

注目したい結果

1. 家政大生ははじめ？

膨大な質問数の中で、特に注目すべき2つのデータについて、ご紹介します。

まず、あまり「興味がなくとも単位を楽にとれる授業」と「単位をとるのが難しくても自分の興味がある授業」では、後者の方が良いという回答が多くなっています(図1)。この質問はベネッセ教育総合研

究所が2016年に全国の大学生に実施した質問(図2)と同じもので、比較すると家政大生は自分の興味のある分野を学びたい学生が多い傾向にあることが明らかになりました。また、「あなたは目的をもって大学の授業に参加していますか？」という質問(図3)に対して、「はい」84.3%「いいえ」15.7%という結果がでていることから、自分の目的や進路に基づいて授業を選択している学生が多いだろうということが分かりました。

2. 学生と教員の「評価」に関する認識のずれ

続いて、「発表された成績評価を見て、納得できないと思ったことがありますか」という質問(図4)に対して「よくある」「ときどきある」を選択した学生の割合は40.8%と少なくない結果であることに注目しました。なぜこのような結果になったのでしょうか。

学生が納得できない理由について、テストやレポートといった評価に関わる提出物に対するフィードバックがないまま成績評価されるため、なぜその評価になったのか理解できない、という意見が多く見られました。目的をもって授業に望んでいる学生にとって、レポートやテストは自分の理解度を客観的に図る機会でもあり、教員からのフィードバックを参考にしたい学生も

多いでしょう。教員からのフィードバックを増やすことで、双方向的な学習を促進し、学生の授業に対する満足度の向上を狙うこともできます。

おわりに

今回の結果を受けてどのような印象を受けたでしょうか。本学には、進路や目的のために授業を受けていて、教員からの多くのフィードバックを求めている学生が多いようです。それぞれの専門分野の第一線でご活躍される教員の皆さまの教えを、より多くの学生が吸収できるような授業づくりについて検討していく機会になればと思います。

SCHEDULE

- 5月 企画検討開始
- 10月末～11月 アンケート実施
- 11月 アンケート集計
- 12月 教職員にアンケート結果を報告

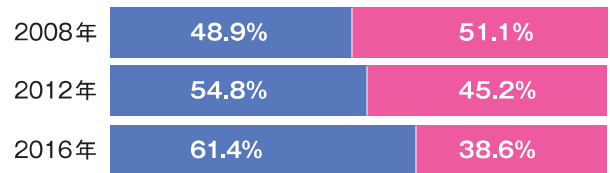
心理カウンセリング学科2年 萩野珠光・CRED矢野穂

図1



- あまり興味なくとも、単位を楽にとれる授業
- 単位をとるのが難しくても、自分の興味のある授業

図2



- あまり興味なくとも、単位を楽にとれる授業がよい
- 単位をとるのが難しくても、自分の興味のある授業がよい



学生アンケート企画の意義について： 受動的なモニター係から、 積極的な参画者としての学生の役割変化

大西 淳之

本学栄養学科教授（生化学研究室）、
学修・教育開発センター 参事。

東京家政大学キャンパス内での主役は学生であり、その学生が在学中（大学生なら4年間、短大生なら2年間）にディプロマ・ポリシーで掲げている学生像に成長できるように学修環境を整えることが教職員の責務となる。そのような学修環境を作り出していくことを目的として、学生CREDメンバーによる学生対象のアンケート質問項目の作成と全学的な調査の実施に初めて取り組んだ。設問内容は、成績評価や授業関連項目、大学の施設・設備状況や空き時間の過ごし方を含む13セクションからなる。選ばれた設問は家政大キャン

パス内で学生自身が感じる重要な課題であり、それらをより良くしていくための全学的な取り組みについて共有できる貴重な機会となった。得られた回答結果（特に自由記述欄）を眺めると、教員が授業の中で重視している項目は、必ずしも学生が満足する項目と一致するとは限らないことも分かる。このことは現在、学内でやっている授業アンケートが、学生からの授業評価を拾いきれていないということを示している。今回は、学生参画型FDとして最初の一步となった。

図3

Q あなたは目的をもって大学の授業に参加していますか

■ はい
■ いいえ

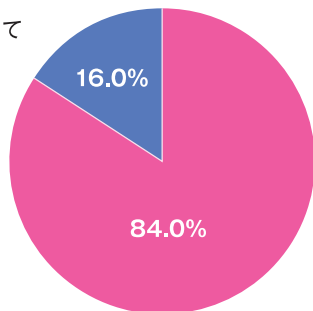
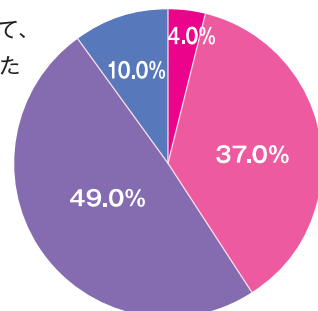


図4

Q 発表された成績評価を見て、「納得できない」と思ったことがありますか

■ よくある
■ ときどきある
■ あまりない
■ まったくない





2019 春

学生FDサミット in 島根県立大学

2019年3月21日(木)～3月23日(土)
参加者 学生2名

私は、今年の3月に島根県立大学で行われた「学生FDサミット 2019 春」に参加してきました。そこで感じたことを少しだけ書かせていただきたいと思います。

私は学生 CRED に入ったのは去年の12月、学生と教職員の交流会に参加したのがきっかけでした。学生 CRED が行っている活動に興味を持ち、メンバーを集めていることを聞いた私はすぐに入ることを決めました。しかし、入ったものはいいものの何をすればいいのか、そもそも何を目的としているのか、いまいよくわかっていませんでした。

そんな時に学生 FD サミットの話聞き、「もっと自分が学ばなければ」と思い、すぐに参加を決めました。

二日間で行われた学生 FD サミットですが、集まった大学の数や人数を知り、「FD 活動を行なっている大学がこんなに全国にあるんだ」と少し驚きました。と同時に、安心感も感じました。

1日目のある教授の話に「FD 活動はなくなるべきだ」という話がありました。最初はどのようなことなのかわかりませんでした。話を聞いていくうちに「なるほど、納得!」という気持ちに変わっていきました。

その話の内容を簡単に説明すると、「一部の人が頑張って FD 活動しようという

意識を持って活動するのではなく、全員がFD 活動をしているという意識を持たずに活動する」ということです。この話を聞いた時に、私たちが目指すべき最終目的はこなんだと思いました。

斬新な考え方であり時間がかかることですが、大学全体の意識が変わり全員が当たり前のように

FD 活動を行えば必ず実現できることだと思います。そのきっかけになる学生 CRED は重要な団体であると再認識できました。

FD サミット2日目は他大学の方とグループになり、FD 活動についてディスカッションをしてその内容を模造紙にまとめるというを行いました。私たちのグループが話し合ったことを少し紹介します。

まず、FD 活動をするためには自分たちの大学のことをよく知らなければ、学校生活をより良くすることはできません。そのためにはどうすれば良いか。アンケートなどももちろん大事ですが、もっと身近な声に耳を傾けることが大切であるという意見が出ました。例えば友達とのふとした会話の中であったり、食堂などで誰かがこぼし



た言葉だったり。そういった声を形にするための第一歩を私たちが行うのだというところに話がまとまりました。

皆さんが学校生活に対して思っていることがあれば、どんな小さなことでも声を出してほしいです。私たち学生 CRED はその声を形にするために精一杯頑張ります。



大江 和奏(おおえ わかな)
児童学科育児支援専攻3年



第3回

新入生ウェルカムパーティー

2019年4月11日(木) 15:30～17:30 / Cafe Luce (16号館食堂ルーチェ)

参加者 学生101名(上級生:36名、新入生:65名)、教員3名、職員3名

プログラム

15:30 開会の言葉
趣旨説明

15:40 アイスブレイク

15:55 学科別交流

17:15 閉会の言葉

17:20 アンケート・肖像権同意書記入

学生CREDは“新入生と上級生が交流するイベント”を2年前から継続して実施しています。

私も昨年参加した際に、同じ学科の上級生から各授業の特徴やレポートを書くコツなどを教えていただきました。同じ学科に所属していても、日常生活の中で上級生とお話する機会は多くありません。大学2年になった今、上級生から直接アドバイスをもらえるのはとてもありがたいことだったのだと改めて感じています。

そこで今年は運営側として、新入生が抱えている学生生活への不安を少しでも解消できれば、との想いでこの「第3回 新入生ウェルカムパーティー」を企画しました。

本イベントをより良いものにするために学生CREDメンバーで12月から話し合いを重ね、今回は開催時期と応募方法を少し変更することに決めました。まず、履修登録前に開催したほうが新入生にとってより有意義なイベントになると考え、開催時期

を例年の5月から4月中旬へと変更しました。そして、これまで学生CREDのメールアドレスを応募先として記載していたポスターには、新入生がその場で簡単に応募できるように、送信先等が自動挿入されるQRコードを掲載することにしました。

ありがたいことに、ポスターを見た新入生から続々と応募のメールが届き、最終的には全ての学科(専攻)とも定員に達して当初の予定より早く募集を締め切るほどでした。

当日は、学科(専攻)ごとに試験対策法や取得可能な資格の詳細などをまとめた資料を配布しました。資料に記載された内容に加え、勉強とサークル・アルバイトとの両立について、第二外国語、サークル、緑苑祭など様々なトピックで話すことができました。ルーチェの店長さんが提供してくださった唐揚げやフライドポテト、チュロスをはじめとする美味しい軽食を食べながら、新入生だけでなく上級生も楽しく過ご

せたのではないのでしょうか。

新入生に回答していただいたアンケートには「先輩からたくさんお話が聞いて良かった」「来年は上級生スタッフとしてぜひ参加したい」という声も寄せられており、とても嬉しく思います。

第3回 新入生ウェルカムパーティーは多くの方々に支えられ無事に開催することができました。ご協力くださったルーチェの森店長さん、有志の上級生スタッフの皆さん、そしてCRED教職員の皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



関根 彩乃(せきね あやの)
環境教育学科2年

学生CREDメンバー5名が、平成30年8月28、29日に京都光華女子大学で開催された学生FDサミットに参加しました。学生FDサミットは、全国の学生FD団体、教職員が一同に会し意見交換を行う場として、毎年2回開催されています。今回は「壊して作れ!!～やる気と無気力の壁～」をテーマに、学生・教員・職員の混合チームで「壁を壊すためには何ができるのか」を議論しました。参加した学生からは「視野が広がった」「今まで『こうだったらいいのに』と思うことがあっても教職員に伝えることをしなかったが、まずは私から教職員の方を知ろうと積極的に行動していきたい」などの感想が寄せられ、充実した2日間となりました。

2018夏

学生FDサミット in 京都光華

2018年8月28日(火) 12:00～19:30、8月29日(水) 9:00～15:30

参加者 学生5名、教員1名、職員1名

家政大学の学生FD活動は発足してから数年しか経っていません。そのため私は学生FD活動をしているのですがその実態についてはよくわかっていませんでした。他の学生さんから、「学生CREDって何」と聞かれても曖昧に微笑み、「学校生活をより良くするために活動しているよ」と回答になっていない回答を繰り返すばかりでした。今回の学生FDサミットのお話は私が学生CREDとして活動して一年が過ぎた頃舞い込んできました。「このまま、ずっと学生FD活動がよくわからないまま活動するの? そんなのは嫌だ!」と思い立ち、今回の参加を決めました。

自分で学生FDや学生CREDについて説明できるように、さらには、胸を張って周囲に活動を自慢できるようになろう!と意気込んで京都に旅立ちました。

今回の学生FDサミットのテーマは「作って壊せ無気力の壁」。壁を壊すためには、どうすれば良いのか、を考えました。さまざまな大学の方々と壁について考え、意見交換しました。その話し合いの過程や、発表を聞き、私が感じたことを少し書き綴ろうと思います。

「壁」とはなんでしょう。目に見える壁

でないことはわかります。物理的ではないからこそ、正体不明、原因不明で困っているのです。そもそも、「無気力」な状態に壁が存在するのでしょうか。無気力であれば壁はできないはずなのです。しかし、学内では無気力の壁がありとあらゆるところに存在しているらしいのです。

例えば、不満ばかり言う学生。学校や授業に対し沢山の不満を言っています。しかし、それを改善しようと行動に移そうとはしません。なぜでしょうか。どうやら無気力の壁が行動しようとする力の邪魔をしているようです。無気力の壁とは、我々学生の心の中に潜んでいる「諦め」が原因のようです。それは学生だけではなく、教授、職員の方同様に「どうせ、やっても無駄だろうな」という「諦め」が行動を億劫にしているそうです。原因がわかれば無気力の壁の壊し方は簡単です。少しの勇気を振り絞り、行動してみれば全て解決する



のです。しかし、行動するのはとても勇気がいることですね。誰しも、怖いはずですから。だからといって、無気力の壁をそのままにしていわけではありません。初めの一步を踏み出すにはどうすればいいのか。そのために私たち学生FDがいるのではないのでしょうか。無気力の壁を壊すための一步を提供すること、それが我々のやるべきことであり、私のやりたかったことだと気付くことができました。

都築 咲希 (つづき さき)
人文学部教育福祉学科2年





第5回

学生と教職員の交流会

2018年12月6日(木) 17:00～18:50 / Cafe Luce (16号館食堂)
参加者 学生20名、教員10名、職員5名

第5回学生と教職員の交流会に携わらせていただきました。栄養学科栄養学専攻3年の小島佐規です。私は今年の4月から学生CREDに入り、初めてリーダーとして周りに支えられながらこの会を作ってきました。自分の指示が足らずに失敗で終わってしまうのではないかと不安もありましたが、最後まで無事に会を終えることができました。学生CREDは他学年、他学科の学生が集まる団体ですが、それでも毎週時間を合わせてこの会のために色々努力をしてきたので、やりがいがあり、達成感の気持ちでいっぱいです。

今回の学生と教職員の交流会で第5回となりますが、この交流会の1番の良い所とは、“他学年・他学科の学生、色んな教職員と交流が出来ること”です。普段の大学生活では、同じ敷地内にも他学年・他学科の学生や、授業外での教職員との交流は限られています。なのでこのような交流会を通してお互いを知るなどの交流を深め

ておくことで今後の大学生活においてもとても良い機会だと思います。私は夏に京都で開催された学生FDサミットに参加してきました。そこでは“壊して作れ!!～やる気と無気力の壁～”というテーマで各大学の方々と、学生と学生、又は学生と教職員の壁をどのようにしたら壊すことができるのかという内容で話し合いを行いました。京都で過ごした時間はとても有意義な時間でした。そこで東京家政大学でもこのような壁はあるのではないかと考えたことから今回の交流会でこのテーマを取り入れました。実際の交流会では、とても多くの意見が出ました。その一部を紹介します。

- もっとこのような交流会を取り入れていき色んな人とコミュニケーションを取れるような機会を作る
- 普段の大学生活でコミュニケーションを取れるような場所を作る
- 教員に何か聞きたいことがあっても研究室に入りづらい

プログラム

- 17:00 開会の言葉
- 17:05 学生CREDからの報告会
- 17:15 学生・教職員それぞれで話し合い
- 17:40 グループ分け
- 17:45 アイスブレイク
学生・教職員で話し合い
- 18:25 発表
- 18:50 閉会の言葉

等、様々な意見が出て、とても充実した話し合いができたのではないかと思います。また、今回の交流会では狭山キャンパスの教職員の方にも交流会に足を運んでいただきました。実際に話をされていてそれぞれのキャンパスで雰囲気等違うような印象を受けました。同じ東京家政大学として、近々狭山キャンパスとの交流会をメインとしたイベントを企画したいと思います。

この会を開催するにあたって、支えてくれたCREDメンバーの皆様、交流会に参加して下さった学生、教職員の皆様本当にありがとうございました。



小島 佐規 (こじま さき)
家政学部栄養学科栄養学専攻3年

学生主体の活動紹介

集まれ新入生!

第2回 新入生歓迎交流会



第2回新入生歓迎交流会に携わらせていただきました、英語コミュニケーション学科2年の虎岩由華です。この会は、新入生に上級生とのコミュニケーションを通じて、不安や疑問を少しでも解消してほしいという願いから、昨年に引き続き開催されました。私自身、昨年の第一回新入生歓迎交流会に参加したことがきっかけで学生CREDに興味を持ち、今年は企画者として参加しました。



開催2度目となる今回は、前回の反省を生かし新しく挑戦したことがありました。1つ目は、事前に新入生に「上級生に聞きたい事」についてアンケートを実施したことです。これにより、実際に新入生の抱える不安や疑問について具体的に知ることができ、事前に準備がしやすくなりました。

2つ目に、会の構成を変更しました。「もっと学科内でお話しする時間がほし

い」という意見を参考に、昨年の2部構成から、思い切って学科内交流のみに絞りました、これにより学科内交流の時間を十分にとることができ、より深くじっくりとお話しをすることができました。



3つ目はアイスブレイクの内容です。今回は「学科対抗クイズ大会」を行いました。学校の建物の名前、コンピューター室の数、人気の学食メニューや学長先生についてなど、さまざまなジャンルの問題を用意しました。もちろん、準備を担当してくださった方を除いて、ほとんどの上級生は当日まで問題の内容を知りません。新入生と一緒に、上級生も楽しむことができ、大変盛り上がりました。アイスブレイクを担当してくださった方々、ユーモアにあふれたクイズをありがとうございました。そして、見事優勝された環境教育学科のみなさん。おめでとうございます。

交流会後には学生の方々から「参加してよかった」「またこのような交流会に参加したい」という言葉をいただきました。企画者一同とてもうれしく思うと同時に、多くの方々に協力していただけたことが、交流会の成功につながったのだと強く感じました。また、学生CREDというチームで活動する上での課題も多く見られました。今回の反省を生かし、より多くの学生が気兼ねなく話し合えるような組織を目指していきたいと思えます。

最後になりますが、事前準備の段階から積極的に参加していただいた上級生スタッフの皆様、いつも私たちを見守り、支えて下さる教職員の皆様、そして共に企画に携わった学生CREDのメンバーに深く感謝いたします。本当にありがとうございました。



虎岩 由華(とらいわ ゆうか)
英語コミュニケーション学科2年

学 生 C R E D 発 足 !

学生 CRED は「家政大を、自分たちの学生生活をよりよくするために」という標語を掲げて活動する学生団体です。学修・教育開発センターは、学生 CRED の正式発足（平成29年8月7日の教授会でキャンパス・ボランティア団体として承認されました）以前から、学生たちの活動を見守ってきました。この場を借りて、学生 CRED 設立の経緯を記録しておきたいと思います。

発端は「学生と教職員の交流会」にあります。学修・教育開発センターが発足した平成26年度に第1回を開き、その後も年に一度行っているこの会で、学生から多く聞かれるのは、学生と教職員が交流する機会、他学科の学生や同じ学科の他学年の学生と接する場がもっとあるとよいという声です。また、不満やいろいろな要望も挙がります。こうした要望に対して、当初は教職員側がどう対応するのかということだけを考えていました。しかし、交流会の回を重ねるうちに「学生は注文する人、教職員は注文に応える人でよいのか」、「学生自身にもできることがあるのではないか」という思いが強まりました。そこで、平成28年度の「第3回学生と教職員の交流会」から、企画・運営を学生に委ねることにしたのです。第1回・第2回の交流会のアンケートで「今後企画から関わりたい」と回答してくれていた学生、特待生に呼びかけたところ、5名の学生が応募してくれました。彼女たちは、何回もミーティングを重ねて企画を進めてくれました。学修・教育開発センターからは職員がミーティングに参加して（教員も何回かに一度の割で加わりました）学生たちの相談役になるとともに、学生だけでは難しい部分（参加学生へのポータルでの呼びかけなど）を手伝いました。第3回交流会は12月20日に開かれ、司会やファシリテーターもすべて学生が務めました。参加者の満足度は高く、教職員の方からも「思っていた以上に学生たちは



できるね」という感想をもらうことができました。企画・運営役の学生たちと学修・教育開発センター教職員の初会合（10月20日）の議事メモを読み返したら、「当日の司会（実行委員がやるのはハードルが高い?）」という記述がありました。どうやら心配していたらしいのですが、いまとなっては心配していたことが不思議でなりません。第3回交流会について、教育福祉学科の齊藤さんが企画者を代表して書いてくれた文章が CRED 通信06に掲載されていますので、ぜひご覧ください。

その後、交流会の反省会（平成29年1月20日）で、学修・教育開発センターからの提案を学生が受け入れる形で、交流会企画者のうち4名の学生たちによって学生 CRED が発足しました（学生 CRED という名称は学生たちが提案してくれたものです。命名日は3月7日です）。学修・教育開発センターは FD を担う部署でもあるので、センターの FD 業務を手伝ってもらい、いわゆる学生 FD 団体として発足させてはどうかという意見もありました。しかし、学生の主体性を発揮する機会の創出が第一義だと考えていましたので、教職員から学生に意見や要望は伝えるが、最終的な決定

は学生が行うということを経験者と教職員間で合意しました。「学生と教職員の交流会」後の最初の企画は、学生 CRED メンバーが、自分たちが新入生だったときにこういう場がほしかったという思いから生まれた「新入生歓迎交流会」です。「新入生歓迎交流会」は多くの上級生を巻き込んで5月18日に開かれました。各学科の上級生たちが工夫をこらして新入生をもてなした会は参加者に大好評でした。新入生歓迎交流会については、児童学科の平田さんが書いてくれた文章が CRED 通信07に掲載されています。こちらもぜひご覧ください。

学生 CRED 設立までの軌跡を紹介させていただきました。学生 CRED は「第4回学生と教職員の交流会（11月30日）」「第1回クリスマスパーティー（12月21日）」を成功裏に終えて、平成30年2月現在でメンバーは12名です。これからも、学生 CRED および参加学生一人一人の成長を、期待を持って見守り応援していこうと思います。

井上 俊哉（いのうえ しゅんや）

本学心理カウンセリング学科教授（心理統計研究室）、学修・教育開発センター所長。



第4回

学生と教職員の交流会

2017年11月30日(木) 17:00~18:50 / Cafe Luce^{カフェ ルーチェ} (16号館食堂)
参加者 学生27名、教員13名、職員11名

夏休み後、学生企画委員は2つのチームを作って企画に取り組みました。私達は第4回学生と教職員の交流会チームです。板橋校舎には学科が9個あり、コースや専攻で更に細かく分かります。同じ校舎に通っていても、学科が異なる学生の事について、知らないことがたくさんありませんか。また、同じ敷地で生活していても、学生と教職員の方がお話をする機会は限られているかもしれません。

そこで、

*授業の本音を共有する事

*一週間のスケジュールを共有する事

*他学科の学生と友達になる事

が出来る会の準備をしました。

交流会の開催に向けて、学部・学科・学年の異なるメンバーがほぼ毎週集まってミーティングをしました。所属が違うので、時間割も課題が忙しい時期もそれぞれ違います。例えば、活動期間中に校外での実習があるメンバーもいました。

実習期間直前まで参加してくれて、実習期間終了と共にすぐ戻ってくれる姿に頭が下がる想いでした。

開催に向けての準備を始めてすぐ、新企画チームから1人、掛け持ちで入ってくれました。彼女は普段も、会が始まる直前も冷静且つ優しくかったです。居てくれるとホッとするメンバーの存在は、当日マイクを持つメンバーにとって支えだったと思います。

また、当日にファシリテーターとして参加してくれた新企画チームのメンバーと、教職員テーブルのファシリテーターを務めてくださった教職員の方々の協力もあり、会を進行することが出来ました。

マイクは司会担当の2名とアイスブレイク担当の2名が交代で持ちました。

話し合うグループは6つに分かれました。マッチングゲームの時に企画委員が一時不在になるグループがあります。参加者3人でお迎えに行くことを開会直前に承諾して

プログラム

17:00 開会

17:10 学生間交流、教職員間交流

【学生間交流】

・アイスブレイク

・週間スケジュールの共有

【教職員間交流】

・週間スケジュールの共有

・自分が覚えている思い出の授業

～マッチングゲーム～

17:35 学生-教職員間交流

【前半】

・教職員のスケジュール

【後半】

・授業の作り方

・好きな授業

18:30 共有タイム

司会者インタビュー

18:50 閉会

もらい、グループ編成を乗り切りました。

学生企画委員の意見と、CRED 教職員の方々のアドバイスで交流会が完成したけれど、誰か一人でも欠けていたら会は全く違うものになってしまっていたと思います。

学生 CRED の集まりはいつでも安心感があります。それは私達が学生企画委員として加わる前から活動していた、4名の初期メンバーが作ってくれたものだと思います。

また、私達のチームには、学生 CRED の総合リーダーが居てくれました。限られた時間でミーティングが成り立ったのは、彼女のおかげです。私は、いくつもの事を両立していく彼女の姿に勇気と希望を見出しました。

開催に関わった全ての方に感謝致します。

大橋 貴子(おおはしたかこ)

服飾美術学科3年





プログラム

- 15:15 開会
- 15:20 交流
 - ・自己紹介
 - ・テーマトーク
「授業」
「学生生活」
「就職」
「大学周辺のおすすめスポット」
- 16:25 グループ替え
- 16:30 レクリエーション
 - ・自己紹介
 - ・意識合わせゲーム
- 17:00 閉会

第1回

クリスマス交流会

2017年12月21日(木) 15:15~17:00 / I62D 講義室

参加者 学生16名、教員1名、職員3名

2017年12月21日に、学生 CRED 企画「クリスマス交流会」を開催いたしました。本交流会は「学生同士のつながりを作りたい」という学生 CRED メンバーの思いから企画され、学生生活に関するテーマトークと、クリスマスに合わせてレクリエーションを行いました。参加した学生の皆様からは「楽しかった」「参加して良かった」というお声をいただくことができ、企画チーム一同、開催して良かったと感じております。

しかしながら本企画の成功に至るまでに、これまで以上に多くの課題がありました。私は学生 CRED 立ち上げメンバーの一人として活動して参りましたが、今回初めて「失敗するかもしれない」という強い危機感を持ちました。学生 CRED の内と外のそれぞれに課題が見え、次につながる収穫の多い企画となりました。

8月に学生 CRED が正式に承認され、メンバー全員で話し合った結果、「学科内で学年を越えた縦のつながりを作る機会が

求められているのではないかと」いう意見が多く、当初は「学科内交流会」として企画がスタートしました。ここでまず外の課題として、開催時期の問題がありました。3年生の就職活動の本格化、4年生の卒業論文の提出と時期が重なってしまったのです。このため特に上級生の参加希望者が非常に少なくなってしまいました。また参加を希望する学生の学年の偏りのほかに、学科の偏りもありました。これは広報活動が不十分であるために学生 CRED の認知度が低い、情報発信の方法が現状限られている、という広報の課題によるものではないかと考えています。様々な学年・学科を巻き込んだ催しを行う難しさを実感しました。

内部の課題としては、学科によって独自の説明会や実習があり、学生 CRED メンバーも企画に参加できないという状況が生まれました。さらに組織内の意思決定と情報共有の課題があったように思います。最後にはチーム全員が「企画を成功させた

い！」という思いを共有できていましたが、今後の活動に向けて組織体制をしっかりと構築する必要があると強く感じました。

このような経緯を経て、「クリスマス交流会」として開催することができました。今回見えてきた課題を確実に次の企画や来年度の活動に生かしていきたいと思えます。そして、私たち学生 CRED が、学生自身が、この家政大でできることが確かにあると感じられた一年となりました。最後に、参加して下さった学生の皆様、いつも様々な面で私たち学生 CRED を支え、見守ってくださる CRED 教職員の皆様、そしてこの企画を最後まで投げ出さず、諦めずに一緒に成し遂げてくれた学生 CRED メンバーにこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

吉井 英樹乃(よしい ふきの)
教育福祉学科3年



先輩のノートを
真剣に見つめる新入生
(学科別交流/栄養学科)



ライブペインティングに
興味津々
(学科紹介/造形表現学科)



人形劇で学科を紹介
(学科別交流/児童学科)

第1回

新入生歓迎交流会

—— 学生CRED(仮称) 企画第1弾!!

2017年5月18日(木) 15:10~17:30 / 161C 講義室 / 参加者: 学生86名(上級生30名、新入生56名)、
教員9名、職員7名

これからの学生生活に向けて

第1回新入生歓迎交流会に携わらせていただきました。児童学科3年の平田彩花です。この会は「期待や不安を抱いた新入生を歓迎し、交流する」ことを目的として、開催しました。私たちが入学した当時を思い返してみると、不安なことが多くある中誰に聞けば良いのか分からず、戸惑うことが多かったように思います。「今年入学した1年生も同じ気持ちなのではないか」「私たちが上級生となった今、新入生にできることがあるのではないか」という思いから、この新入生歓迎交流会を企画させていただきました。

この会は、学生CRED*だけでなく、各学科の上級生にも「上級生スタッフ」として、企画の段階から協力していただきました。新入生歓迎交流会は今回が初めての試みだったため、不安や悩みも多くありましたが、CRED教職員の方々や上級生スタッ

フの方々とは会議する中で少しずつ形になっていきました。

第1回新入生歓迎交流会はアイスブレイクから始まり、二部構成で開催しました。まずアイスブレイクとして「学科当てクイズ」を行いました。とても盛り上がり、会場全体が温かい雰囲気となりました。一部は、学科ごとにブースを作り、同じ学科の先輩(上級生スタッフ)と新入生の交流でした。同じ学科の先輩とお菓子を食べながら楽しく交流し、授業や課題について話し合う様子が見られました。そして二部は、新入生が他学科のブースに移動し、その学科の「学科自慢」を聞くという他学科交流でした。各学科の特色を生かした学科自慢はとても面白いものとなりました。

私が新入生歓迎交流会に関わらせていただいて、とても嬉しく思ったのは「この会に参加できてよかった」という声をたくさ

ん聞いたことです。この言葉は新入生だけでなく、上級生の方からもいただきました。今回の新入生歓迎交流会が、新入生の不安を少しでも取り除き、上級生にとっても楽しく交流する良い機会となりましたなら、嬉しい限りです。

今回の新入生歓迎交流会は第1回として開催し、次回につなげていきたい点、考え直したい点が明確になりました。第2回新入生歓迎交流会をより素晴らしいものにするために、これからも多くの学生・教職員の方々と協力しながら活動していきたいと思っています。最後に、第1回新入生歓迎交流会の企画・運営にご協力いただきました上級生スタッフの皆様、新入生募集の呼びかけ等にご協力いただきました教員の皆様、そして私たちの活動を支えてくださったCRED教職員の皆様、本当にありがとうございました。



「人の心がわかりそうだから、心理カウンセ
リング学科!」「大正解!」
(学科宛てクイズ/アイスブレイク)



平田 彩花(ひらた あやか)
児童学科3年

※学生CRED(仮称) 学生企画委員として「第3回学生と教職員の交流会」の企画・運営に関わったことをきっかけに、「家政大をよりよくするために何かしたい」という思いから活動し始めた学生団体です。「家政大を、自分たちの学生生活をより良くするために」をモットーに、様々な企画を考え、運営していくことを目的としています。



各学科の上級生スタッフが
手作りの学科紹介冊子を
作成した



インタビュー(漫才)形式の
紹介でみんな笑顔に
(学科紹介/短大保育科)



「自主自律の道を歩み始める学生を支援する」とは(職員の立場から)

学修・教育開発センターの目的の一つに「自主自律の道を歩み始める学生を支援する」ことがあり、本交流会はまさにその活動事例の一つです。では、ここでいう「支援」とは何を指すのでしょうか。交流会を終えた現在、私個人としては「学生主体の活動に対し、職員ができることはあまりない」というのが率直な感想です。なぜなら、彼女たちが“まずは自分たちで考える”ことを忘れず、交流会の企画に取り組んできた様子を間近で目撃したからです。ある学生は、「自分

の学科の新入生の応募が少ないから授業に呼びかけに行きたい」といい、また別の学生は「まず大学の授業がどういふものなのかを教えてあげたいから、ノートを取り方をまとめて、配布しようと思う」と相談してくれました。“自分たちでできることは何か”を考えて、取り組むその様子はまさに「自主自律」を体現した姿であり、IR報告(本通信p10-11)で指摘されている「まじめだけれどおとなしい東京家政大学生」像を覆すものでした。そしてもしかすると、ここに「支援

のヒントがあったのではないかと思うのです。つまり、職員は学生が気軽に相談することができる「場」ではあるけれども、最終的に答えを出すのは学生自身であるように「支援」することが1つ重要な点ではないかと思っています。

活動はまだ始まったばかりです。まさに「自主自律の道を歩み始めた」彼女たちにぜひこれからもご注目ください。

矢野 穂(やのみり)
学修・教育開発センター

「学生参加型FD」としての「学生CRED(仮称)」の意義と目的: Student-Faculty Partnership

FD (Faculty Development) は、大学の授業や教育の改善のために教職員が主体的に取り組む活動として認識されてきた。私立大学におけるFD活動を考えるとき、「マーケティング」の視点で大学全体の向上を図ると分かりやすい。大学は組織であり、組織としての最終目標は3つのポリシーに明記してある。いっぽうで、組織メンバーである教職員は、“利用者”である学生が何を必要としているのか、何が足りないのかを理解しなければならない。さらには、組織のもつ目的や商品(教育・学修環境)について利用者の理解を得るために、お互いのコミュニケーションを図ることも必要となる。そのコミュニケーションに基づいて、双方にとって有意義な状況を“創造”していくことでFDが実現化されていく。

学生の視点を考慮するためには、アンケート調査だけでは不十分で、学生が自らの視点を自主的に発信し行動できる“公式な”場や機会を設けることが不可欠となる。そうした学生視点の“公式な”場として、今回試行的に立ち上げたのが

「学生CRED(仮称)」であり、これは本校における「学生参加型FD」である。

「学生CRED(仮称)」は、学生自身の居場所である大学が、学生にとって大事な場所、意味のある場所として感じられるようにするにはどこに意識を向けるべきなのか、どのような取り組みができるのか、について少しでも考え、教職員と共に前向きに取り組んでいく場である。「学生CRED(仮称)」が目指す具体的な取組みは、これから学生と教職員と協働で立案・実施していくことになるが、ここでは私案として立命館大学や追手門学院大学などの「学生参加型FD」を参考に下記の叩き台を挙げてみた。

1) 授業に対する学生の声の集約

授業アンケート、学生と教職員との交流会

2) 学生の“視点”を生かした授業展開

学生視点の設問による独自の授業アンケート発案、学生視点によるシラバスの発案

3) 学修意欲の向上

『新入生との交流会(今回の報告)』、

学生と教職員との交流会、アートキャンプほか

4) 学修環境の整備

学生発案の図書館環境(ライブラリ-メイツ)、学生と教職員との交流会

本学には学修意識の高い学生がおり、彼女たちは様々な取り組みを推し進める力を持っているのは間違いない。この点は、日々の授業や交流を通して教職員自身が感じており、実際に昨年度までのIR報告でも明らかにされている。教職員は学生がまだ“発揮しきれていない”力を信じて、その力を引き出しながら一緒に大学をよくしていく、このことが今回紹介する「学生CRED(仮称)」の第一義だと考える。

【参考文献】

1. 木野 茂 (2010)、「学生とともに進めるFD」、『大学教育学会誌』32(2):51-54
2. 服部憲児 (2012)、学生参加型FDの現状と実践上の課題、『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』38:197-213

大西 淳之(おにしじゅんじ)

本学栄養学科教授(生化学研究室)、学修・教育開発センター 参事。

第3回

学生と教職員の交流会

2016年12月20日(火) 18:15~20:00 / Cafe Luce(16号館食堂) / 参加者 学生24名、教員17名、職員10名

家政大を、自分たちの学生生活をよりよくするために。

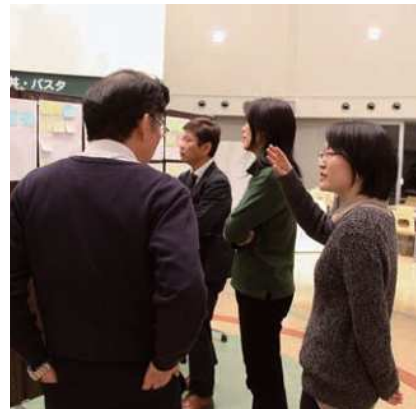
今回学生企画者として携わらせていただきました、教育福祉学科3年齊藤ひかりです。「第2回学生と教職員の交流会」に参加したことがきっかけでこの交流会を知り、今回企画者として参加させていただくことになりました。日頃行われている「学生と教職員の交流」と言いますと、サークル活動や学科内に限られてしまいがちです。私自身、自宅が遠いため大学のサークルに所属することが難しく、他学科の先生方や学生と交流できる機会がなかなかありませんでした。また同じ学科内でも、学年を超えた繋がりが持ちづらい現状にあります。「せっかく多種多様な学科があるのだから、もっとたくさんの先生方や学生と交流する場をつくりたい…!」このような思いから、2年生3名、3年生2名、合計5名の学生が企画委員として携わることになりました。

第1回、第2回の交流会は、CREDの教職員のみなさまが企画から運営まですべて

担ってくださっていました。そして第3回目となる今回、私たち学生が企画者として加わりました。学生にとって大学行事の企画に携わること自体が初めてで、不安な点もありました。しかし、CRED教職員と学生が一体となって企画会議を重ねる中で、「こんな交流会にしたい!」という希望や期待が芽生えていきました。不明点がある時も、CRED職員の方が相談に乗ってくださり、丁寧にアドバイスをくださいました。このように、教職員の方々とコミュニケーションを取りながら進められたことで、私たち学生の力となりました。また、週に1回学生企画者だけで集まり、企画会議に向けた意見交換も行っていました。学生だけの話し合いを取り入れることで、学生企画者同士の絆を深めることができたのではないかと感じています。このような過程を経て、決定した交流会のテーマは「家政大を、自分たちの学生生活をよりよくするために」です。学生生活をより充実したもの

にするために、学生自身が主体的になって意見を出し合うことを目的としています。交流会の参加者を募るにあたりましては、ポータルで全学科の学生に連絡させていただきました。また、ポスターを作成して学内に掲示し、呼びかけました。その結果、学生24名、教職員の方々27名合計51名が今回の交流会に参加してくださいました。

交流会の司会や趣旨説明、タイムキーパー、ファシリテーターは、学生企画者の中で分担を決め進行していきました。まず会の初めにアイスブレイクとして学生同士で自己紹介をし、次に先生方にグループへ加わっていただき、4つの中テーマについて意見交換を行いました。その中テーマとは、1. 週間スケジュールの共有 2. 図書館の利用方法について 3. 授業外学修時間 4. 学生の主張、でした。私のグループでは、このうち1, 2, 3の3つの中テーマを関連付けて進行していきました。週間スケジュール



の共有では、授業・授業外学修・アルバイト・サークル活動などをどのように両立させているのか、授業外学修時間をどのように確保しているのか等を共有しました。その中で、勉強をするにあたって工夫している点や自分が一番勉強に集中できる場所等をポストイットに記入していき、お互いに意見交換や感想を伝え合いました。会の初めは張り詰めた雰囲気でしたが、アイスブレイク等を通して次第に打ち解け、あっという間に時間がきてしまったように感じています。

今回の交流会を終えてみて一番印象に残っていることは、「もっとお話ししたい!」という声を多く聞けたことです。交流会終了後も、さらに掘り下げた内容を話し合っている様子が伺えました。また、教員、職員のみなさまのご意見を直接お聞きできたことで、話し合いもより深い内容へと繋がっていったのではないかと感じています。他の学生企画者からも、「他学科の学生や先生方と交流することができたこと

で、視野を広げることができた」「話し合いの際、積極的に意見が出され、ポストイットも活用できた」「事前打ち合わせをしっかりできたおかげで当日の運営をスムーズにできた」などの感想が寄せられています。

今回の交流会は、学生が加わってスタートした原点になります。これから第4回、第5回と開催していきたいと考えています。学生企画者は今回5名でしたが、今後より多くの学生のみなさんと一緒に活動していきたいです。これからもっと学生のみなさんに企画に関わっていただき、今回のテーマ「家政大を、自分たちの学生生活をよりよくするために」を引き継ぎながら、より多くの意見を取り入れていきたいと考えています。最後にこの交流会を開催するにあたり、お食事を作ってくださいましたルーチェのみなさま、このような企画を学生に持ち掛けてくださり、私たちを導いてくださったCREDの教職員のみなさま、本当にありがとうございました。



齊藤 ひかり(さいとう ひかり)
教育福祉学科3年

家政大を、自分たちの学生生活を よりよくするために

この交流会をきっかけに「私たち学生にできることはないか、何か行動に移したい」と考え活動をはじめました。ぜひ、私たちと一緒にさまざまな企画を考えてみませんか？

お問い合わせは
cred@tokyo-kasei.ac.jp
まで!

〈 活動の様子※昨年度のメンバーも含む 〉

